

救命救急措置

命を救う救命の連鎖

救急車が到着するまでに、救命措置を行うことが生存退院率を上げるうえで重要。

今回は、胸骨圧迫とAEDによる心肺蘇生を体験し、その有益性を感じた。万一そのような場面に居合わせた時は冷静かつ迅速な対応が必要。



救命救急士のご指導をいただく

〈視察を終えて〉

菅原和幸委員

元年度に「救急車心電図伝送システム」と、町内のAED設置状況を確認した。

いつ起こるか分からない事態に対応する措置を改めて視察し、確認をした。

防災倉庫の現状

安全確保のための防災資機材は万全か

町内に設置している防災倉庫には、災害発生時の安全を確保する資機材が確保されている。

普段見ることがない防災倉庫の中には、非常食をはじめ、多くの資機材が整然と並ぶ。

〈視察を終えて〉

土門治明委員

食料品として保存食(ビスコ)、アルファ米、保存水、おむつ。避難所用資機材としてトイレ、段ボールベッド、調理用品、発電機、石油ヒーター、土嚢袋やスコップ等94品種保管されていた。



防災倉庫の様子

改装後のお試し住宅

住宅利用者の反応は

「駅前の家」は遊佐駅から徒歩2分で町内業者と町民DIYで生まれ変わった。

住宅内には無印良品の家具、食器類を備え居心地の良い空間となっていた。訪れた方はどのように感じられたのか。



改装された駅前の住宅

〈視察を終えて〉

今野博義委員

宿泊施設が限られている遊佐町において、無料でお試し宿泊できる施設は画期的。

課題は休日でも町内を移動できる交通網の整備である。

災害時の避難所対応

能登半島地震を教訓にした今後の対応方針は

災害時、避難所の開設は教育課、長期化した時の運営は健康福祉課と町の所管が異なる状況。

津波警報が発令されても避難所の開設をされないことや避難指示についての情報発信等の課題は多い。

〈視察を終えて〉

那須正幸委員

町では能登半島地震を受け、災害に対する管理体制を大幅に見直した。避難所備蓄の整備、情報の伝達、消防団への協力要請など。今回の地震を教訓にして今後の災害対策につなげたい。

渋谷敏委員

元旦の震災による町の対応には課題が残った。今回の教訓を風化させないためにも、理想とする初期対応や刻一刻と変化する状況把握等の体制強化を迅速に図りたい。



吹浦防災センターで座学

〈視察を終えて・まとめ〉

斎藤弥志夫委員

遊佐分署でAEDの使用方訓練、吹浦防災センターで段ボールベッドと簡易トイレの組み立てを実習し、危機管理の実践を体得した。

防災情報の伝達はテレビ、防災無線、スマホなどがあるがまだ確立していない。

●あとがき

まさか、視察した翌日に経験したことのない豪雨災害が起これるとは……。河川の洪水を目の当たりにして、昨日の防災倉庫が頭に浮かびました。

防災意識を高め、日頃から協力し合うことが、災害時に大切な命を救います。